



2008年

7月



緑道サロン

自然や歴史を知って、西淀川をもっと好きになってほしい：大野川緑陰道路の自然と歴史を紹介する冊子「西淀川の自然と歴史にふれあおう」地域の宝大野川緑陰道路の完成イベント「緑陰道路の今と昔をたずねよう」が6月7日に開かれ、33人が参加しました。(主催：緑陰道路サロン)

参加者は、農業用水として、工業や荷物の運搬として、時代に応じて人々につかわれてきた緑陰道路の歴史の痕跡をたどったあと、緑陰道路沿いの喫茶店サザンカに移動。小田康徳・大阪電気通信大学教授(西淀川・公害と環境資料館館長)の、緑陰道路の前身である江戸時代に掘られた農業用水路「中島大水道」について書かれた古文書の解説に聞き入りました。

●目次

特集 ESD～地域での取り組み

ESDは持続可能な社会づくりのための「人づくり」	村上 千里	2
西淀川のESD 1年目の紹介	林 美帆	4
私のESD 辻幸二郎／天野憲一郎／伊藤司／松井克行／柏原誠		4
地域コミュニティの再生へ 大経大の現代GP(菜の花プロジェクト)	貞方 政則	6
「きれいな空気はみんなの願い」西淀川高校の菜の花プロジェクト	新井健一郎	6
西宮 持続可能な地域づくりへ	こども環境活動支援協会	8
豊中 意識しなくてもESDになっていく	井上 和彦	8
生活不活発病を防ごう!④	大川 弥生	9
ダッチ・ミラクル～小さな国の大きな挑戦～②	依藤 光代	3
〈リレーエッセー〉長生きして欲しいは「悪」なのか	長瀬 文雄	10
〈忙中一筆〉ひよんなことがきっかけとなって…	新井健一郎	12

特集 ESD～地域での取り組み

環境学習の発展形は「ESD」(持続可能な開発のための教育)といわれています。西淀川地域は2007・2008年度のESDモデル地域です。全国的なESDの流れと西淀川地域での取り組み、関西地域での他のモデル地域の紹介を通じて、ホットなESD情報をお届けします。

ESDは持続可能な社会づくりのための「人づくり」

村上 千里

国連持続可能な開発のための教育の10年^{※1}(ESDの10年)が2005年から始まっています。持続可能な開発のための教育(以下ESD: Education for Sustainable Developmentの略)とは、持続可能な社会を実現するために、環境・人権・平和・社会的公正などの視点を持って未来志向で社会づくりに参画する力を持つ市民を育み、つなげていく「人づくり」の取り組みです。

■ なのためのESD?

「なんだ、それならもうやっていることじゃないか」と思われる方もいるでしょう。実際ESDという言葉は使っていないけども、ESDにつながる教育や活動は各地で行われています。環境や福祉、貧困や難民の問題など、あまたある社会の課題を解決するために取り組まれている活動は多かれ少なかれ持続可能な社会づくりにつながっており、その活動そのものが「人」を育てる素晴らしい場になっています。またそのような社会の課題に気づき、学び、活動につなげるための教育活動も、学校や社会教育などの場でたくさん展開されています。

「だったらわざわざESDと呼ぶ必要がないじゃないか」との声が聞こえそうです。しかし持続可能な社会につながる活動や教育は、充分に行われているとは決していえません。多くの地域でコミュニティのつながりは希薄になり、社会的課題の解決

や新しい公共を拓く取り組みに主体的にかかわる人はまだまだ少数です。教育の現場では、環境や福祉をテーマとして取り上げるものの、問題を学ぶだけで解決に向けたアクションにつながっていないかったり、単発的な体験で終わり問題の本質にアプローチできていなかったりするものも数多く見受けられます。また素晴らしい活動も、参加者が広がらなかつたり、一部の担い手の負担が大きく、継続的に取り組むことが難しいという課題をよく耳にします。

もっとよい社会づくりにつながる教育が、広く主流化していく必要があります。私たちはESDという国際的なキーワードと、ESDの10年という政府も取り組まざるを得ない国連キャンペーンを追い風に、それを可能にしたいと思っています。

■ ESDで大切にしていること

持続可能な社会づくりは、決まった答えがあるものではなく、地域に暮らすさまざまな立場の人々が、持てる知恵や力を出し合い、試行錯誤を重ねながらともに作り上げていくものです。だからこそESDでは、対象が子どもであれ大人であれ「社会に参画する力」を育んでいるかが重要なポイントになります。「人間の尊厳」「公正な社会をつくる責任」「自然との共生」「文化的多様性の尊重」などの価値観と、「問題の本質を見抜く力/批判的思考力」「コミ

※1 「国連持続可能な開発のための教育の10年」は、持続可能な社会の実現に必要な教育への取り組みと国際協力を、積極的に推進するよう各国政府に働きかける国連のキャンペーン(2005年～2014年)です。2002年ヨハネスブルグサミットにおいて、日本の政府とNGOが共同提案し、同年12月の国連総会で採択されました。

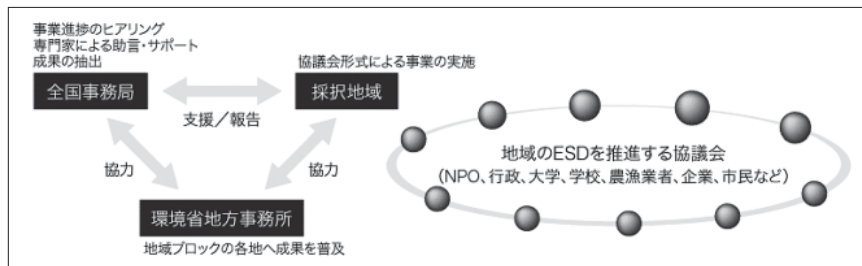
ユニケーション力」「他者と協力してものごとを進める力」などの能力を育むこと。これらは「知識の伝達」という方法だけでは育むことはできないため、ESDでは以下のような方法を取り入れることを提案しています。

- ・問題解決型の「教育」や「地域の活動」から生まれる、参加体験型の「学び」を重視する
- ・多様な人々といっしょに行う
- ・多様なテーマへ展開し総合的に取り組むなど。

現在取り組まれている様々な教育活動が、このような視点や手法を取り入れていくことで、より「ESD的」に展開され、持続可能な社会づくり、地域づくりに広がっていくことを期待しています。

■ 環境省ESD促進事業

ところで「ESDの概念は理解できるが、実際どういう活動なのかイメージできない」との声もたくさん聞きます。そのような声に答えようと、2006年度からスタートしたのが環境省ESD促進事業です。2008年までの3年間で、14地域のモデル的取り組みを生み出し、その成果やプロセスからESDを進めるヒントを抽出していきます。(詳細は<http://www.env.go.jp/policy/edu/esd/index.html> を参照。西淀川区は2007年度のモデル地域、ESD―Jは全国事務局を担っています)促進事業では、地域の多様な主体が参画



環境省モデル事業の図

するESD推進協議会を設置することが求められます。そしてその協議会で、地域の課題やリソースを考慮したESDプロジェクトを検討し、実施します。

事業が始まって2年、多様な主体がかかわるESDプログラムや担い手育成プログラムが形になりつつあります。そして人々、活動と教育をつないでいく役割（協議会やコーディネーター）の重要性が再確認されています。しかしモデル事業の経費が途絶えたあと、誰が協議会の維持運営に携われるのか、それを支える仕組みを地域で生み出せるのか、予測されていた課題の解決策はまだ模索中です。

■ 今後に向けて

ESD-Jは今年、地域でESDを実践している方々の協力を得て、ESDに取り組み際に大切な視点や役立つノウハウ、必要となる支援や仕組みのあり方を探り、提案にまとめていく予定です。関西にお邪魔した時は、ぜひご意見をお聞かせください。

〈団体紹介〉

「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 (ESD-J、代表理事…阿部治)

ヨハネスブルグサミットでESDの10年を提唱したNGOや研究者の呼びかけで2003年6月に発足したネットワーク団体。環境や開発、人権、平和、ジェンダーなど、様々な社会的課題に関する教育にかかわるNGO・NPOや、行政、学校、企業などの団体と個人が参加している。ESDを民間サイドから推進するため、政策提言、地域ネットワークづくり、アジアを中心とした国際ネットワークの構築、ESDの普及啓発および研修を活動の柱に取り組んでいる。 <http://www.ESD-J.org>

(むらかみ・ちさと) NPO法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)

まちの中心で開かれる定期市場。奥に見えるのは古い建物をリノベーション（用途転用）したスーパーマーケット。

ダッチ・ミラクル

～小さな国の大きな挑戦～

依藤 光代 — ②まちの心臓を守る

短い夏を無駄にしてはならぬと、晴れた日は緑濃い公園にオランダ人が集まっています。本を読んだり犬の散歩をしたり芝生に寝そべったり、思い思いにその空間を楽しむのが上手なようです。

オランダの生活は慣れるまではとても不便。なぜならあらゆる店が夕方6時に閉まってしまからです。開いているのはバーだけ。日曜日には飲食店以外は商売をしないため、週末が近づくとみんな一生懸命に食料を買い込みます。これはオランダ人が夜中や週末まで働きたくないよと言っているからではありません。小さな店が巨大な資本と共存できるようにするために、開店時間を規制した法律があるのです。週末も開店を許せば、家族経営の店は従業員を雇わねばならず経営に苦勞するか、さもなくば労働力に余裕のある大型店に水を開けられてしまいます。

その他に、立地もとても厳しく決められています。まちのどこどころの便利な所に商業用地が設けられ、お互いにつぶし合いをしないように選ばれた業種の店舗だけが営業します。なんと一つもにぎやかなのはまちの中心部です。人を惹き付ける場所でありつづけるために、洋服や本屋など日常的に入りする店はここに集められます。そして距離からして買い物には自転車で行くのは十分なのです。また中心に行くほど車のためのスペースはありません。

たくさんの個性ある店はまちの表情を豊かにし、またそれがまちの中に集まることで活気が生まれます。こうして私の住むフロッニンゲンは、今日も健全なまちの心臓を維持し、活発に自転車を吸い込んで送りだしています。

(よりおし・みつよ) 大阪大学大学院

西淀川のESD紹介 (2007)

参加者を募集しています!!

実践中のプロジェクト紹介

自転車

西淀川警察に頂きました
「二人乗りはするな」
「信号は守ってくれ」
自転車が乗りやすい
まちにしたいなあ
自転車マップを作成
西淀川高校生が
作ったマップには
地域愛がたっぷり!

地域資源発掘

西淀川を
もっともっと楽しもう!
地域学習教材を作成中
自然で遊び、歴史が学習できる教材を
作製中。乞うご期待!

アイディアの
卵

地域環境再生

西淀川地区がブルーベリー
の花畑が
春には菜の花畑
に大変身!
菜の花から油
天ぷらも食べ
食薬油は肥料に
残りの菜の花は畑の肥料に
リサイクルの輪を
つくりよう
環境問題に取り組んでいる府立西淀川高校には
「食薬油」を「ディーゼル燃料」に転換するプ
ランが大府教育委員会に認められた結果、こ
の秋、設置(肥料化プラント)が、
学校に設置されました。

食と交通

フードマイレージ買物ゲーム
買物ゲームを楽しんだ後、食材カード
をひっくり返すと...
贈送にかかった
二酸化炭素がわかりました!

モデル地域って、どんなことなの?
行政・学校・地域・市民団体などで「持続可能な交通まちづくり市民会議」を開催し、来年度(平成20年度)の計画を作成します。現在、西淀川地域で実践している4つのプロジェクトを中心に活動して活動中です。

公害の経験がある西淀川の地域で「持続可能な街をつくる人を育てる」ESDを実践したらどうなるだろうか。西淀川地域で環境学習の実践をしてきた人々の交流や、学校間の連携ができることをねがって、2007年度のESDモデル事業がスタートしました。テーマは「持続可能な交通まちづくり市民会議」です。

キーワードは「つながり」

西淀川公害パネルやフードマイレージな

どの教材開発に関わった方々、道路環境市民塾や、こどもエコクラブなどのイベントに携わった方々、授業の実践等でつながりがあった学校の先生方、図書館や博物館等の社会教育施設の方々、区役所や市役所の行政の方々などがあつまり、「今かかえている課題」「こうなったら良いなという目標」「こんなことをやってみよう」「西淀川ESDで目指すこと大切にすること」をみんなて話し合い、共有しました。キーワードとしてよく出てきたのは「つながりがされている」ということ、そしてそのつながりをわかりやすいこと、楽しいこと、つなぐこと、つなぐこと、つなぐことになりました。

高校で「菜の花プロジェクト」

そこで、2008年度は西淀川高校で実践している「菜の花プロジェクト」をESDのつながりを活用して実践し、なおかつESDの輪を西淀川地域で広げたいと考えています。さてさて、「菜の花でつながろう西淀川」はうまくいくでしょうか?小・中・高・大の先生方が語る「私のESD」には進めていくヒントがたくさんつまっています。一部を紹介します。

(西淀川ESD事務局・林美帆)

私のESD

これはとても大きな挑戦であると思います。しかし、足下を見つめながら一歩一歩やれることを見つけて実行してゆく...そのことの積み重ねから何かが生まれてゆくと思います。

(辻幸二郎・大阪府立西淀川高校教諭)

足下を見つめて一歩一歩

「西淀川ESD」となつてゆくに違いありません。

といった営みの中で未来を担う子どもたちが育つてゆくことができれば、それこそが「西淀川ESD」となつてゆくに違いありません。

地域を取り組みに西淀川高校が入っていく

西淀川高校では、いま環境学習を学校教育の柱と位置づけています。そして日々新しいことに取り組みようとしています。そうした取り組みと地域の人の思いがかけあひつながつてゆく、あるいは地域の取り組みに西淀川高校が入っていく

西淀川高校では、いま環境学習を学校教育の柱と位置づけています。そして日々新しいことに取り組みようとしています。そうした取り組みと地域の人の思いがかけあひつながつてゆく、あるいは地域の取り組みに西淀川高校が入っていく

ESDの10年が始まって、はや3年が過ぎようとしています。

ESDとは何か、についていろいろ考えてきましたが、それはまるでタマネギの皮をむいても何も現れないように、いつも考えれば考えるほどわからなくなってきました。

しかしESDという言葉から地域の人がつながり、環境のことについて一緒に考え、共に何かを始めていくことができれば、素敵な話だと思っています。

西淀川高校では、いま環境学習を学校教育の柱と位置づけています。そして日々新しいことに取り組みようとしています。そうした取り組みと地域の人の思いがかけあひつながつてゆく、あるいは地域の取り組みに西淀川高校が入っていく

私のESD

自然と歴史にふれあおう。地域の宝大野川緑陰道路」は学校の教材としてだけでなく、「西淀川の自然と歴史を知る」ことに興味ある市民向けのものになっていると思う。

これからは1・2カ月に一回程度の研究会の定例化して、地域に残る古文書なども小学生に分かるような資料化したいと考えている。

(天野憲一郎・大阪府立今宮小学校教諭)

「地域の宝」の教材化

昨年3月に姫里小学校で定年退職し、4月からは小学校で講師をしている。2001年の「西淀川公害パネル」作成以来、総合の学習の中で「財団と患者さん」「西淀川区保健センター」をゲストティチャーとして授業に取り組んできた。しかし、「総合の学習」や「環境教育」に位置づく取り組みと考えると、必ずしも教室の現場で実行されるには至っていないという実態がある。

そこで西淀川に残る歴史的な遺産を活性化し、残すことを通じて、「西淀川の良さ」を多くの区民の共同の財産にできるのではないかと考え、05年度から「緑陰道路の教材化研究会」を立ち上げて教材づくりに着手した。今

出版した「西淀川の自然と歴史を知る」は学校の教材としてだけでなく、「西淀川の自然と歴史を知る」ことに興味ある市民向けのものになっていると思う。

私のESD

「ESDって何か」なんて、難しいことはちょっと置いて、みんなで協力して、やっていこ。色んなことやってる人がとにかくつながっていくことが、肝心やん。

(伊藤司・大阪府立中学校教諭)

みんなで協力して やっていこう

私にとっては、公害に対する思いは結構強く、教職のきっかけでもあったわけです。私の生まれは1958年ですから「公害企業なんか就職するもんか」って感じます。教職に就いてからも、環境は自分の中で重要なテーマであったのですが、具体的な行動にうつる機会がありませんでした。

それが住之江区の中学校に転勤してから、同僚にも恵まれ、生徒会担当として空き缶リサイクルに取り組みました。そんな中、生徒が電話帳で調べた、産業廃棄物処理業者に電話するところから、空き缶リサイクルに取り組みました。最初は、空き缶が集まるか心配したのですが、いざ始めてみると、集まるは集まるは、すぐに保管場所に困るようになりました。このときの経験から、「市民（私または私たち）でもできるんや」と感じましたし、また「市民（私または私たち）だけではできへん」とも思いました。「市民がもつとつながりあわないといけない、行政や企業に働きかけないといけない」って。

1993年に西淀川高等学校に赴任して以来、気がつけば15年もESDらしきことに取り組んでいます。でも、あくまで自然体で、無理せずにポチポチと楽しみながら、多くの方々と協力しながら取り組んできただけです。

私のESD

「ESDって何か」なんて、難しいことはちょっと置いて、みんなで協力して、やっていこ。色んなことやってる人がとにかくつながっていくことが、肝心やん。

(伊藤司・大阪府立中学校教諭)

西淀川発、世界へ!

2年生の冬の遠足を「西淀川環境フィールドワーク」に変更し、「身の回りの環境診断マップ」作りを実施。西淀川公害の学習のため「西淀川公害における学習用パネル」を開発。特に、西淀川の大気汚染の変化を可視化する教材「SCPBロック」は、1968・1980・1995年の西淀川区の大気汚染状況がよくわかる「スグレモノ」です。「SCPBロック」の設計担当の

松村暢彦准教授（大阪大学大学院工学研究科）は、その後、大阪市内版、阪神版、北摂版、等を次々と開発。小学校一般市民まで楽しく学べます。同じく松村先生が設計を担当された「フードマイレージ買い物ゲーム」も、「楽しく、よくわかる」がコンセプトです。「西淀川ESD」では、みなさんと共に、小学生一般市民が楽しく学べる、教材を創りましょう！（松井克行・大阪府立三島高等学校教諭）

私のESD

「ESDって何か」なんて、難しいことはちょっと置いて、みんなで協力して、やっていこ。色んなことやってる人がとにかくつながっていくことが、肝心やん。

(伊藤司・大阪府立中学校教諭)

「東淀川自転車マップ」づくり

「東淀川自転車マップ」づくりの経験が豊かな市民団体のみなさんの経験に学びたいと考えています。また、自転車で東淀川区内を走行し現地調査を行う段階では、地域住民のみなさんとの協力も模索していきます。

詳細は紹介できませんが、現代GPの活動は本学のホームページで紹介していますのでご覧いただければ幸いです。

(http://www.osaka-ue.ac.jp/gp2006/)

(柏原誠・大阪経済大学経済学部地域政策学科専任講師)

本学経済学部では、現在文部科学省の補助金を受けて、現代GP「地域に開かれた体験型環境・まちづくり教育」市民共同発電所づくりと産業振興プログラムの創造という教育プログラムを推進中です（2006年度～2008年度）。

私が2008年の秋学期に担当するこの「地域調査I」では、ESDのみなさんのご協力も得ながら、「東淀川自転車マップ」づくりに取り組みたいと考えています。すなわち、西淀川高校の生徒のみなさんで作成された「高校生が作った大阪府西淀川区自転車マップ」の発想に学びました。そして実際のマップづくりの方法論を自転車マップづくりの経験が豊かな市民団

淀川地域で行われている2つの菜の花プロジェクトを紹介します

地域コミュニティの再生へ
大経大の現代GP（菜の花プロジェクト）

大阪経済大学では、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)に選ばれ、「地域に開かれた体験型環境まちづくり」というテーマに対して、学生実行委員は市民共同発電所など地域住民と協力しプログラムに取り組んでいます。

その中で菜の花プロジェクト班では、講義に参加し、この事業に取り組みられている第一線の方にお話を聞ける機会が設けられていて、菜の花プロジェクトの理念などを学びました。また、旧愛東町に

ある菜の花館に見学に行き、このとき初めて廃食用油でエンジンが動き、排ガスの匂いも天ぷらを揚げた時のものと同じだと感じました。

さらに、フィールドワークとしてNPO法人自然環境会議八尾さんに協力し、中環の森(通称)で菜の花の刈取り作業に参加しました。広さ0・1haの菜の花畑から約100kgを刈取りました。

そして、夏休みを利用して京都で合宿を行い、NPO法人丹後の自然を守る会の代表を務める蒲田氏へのヒアリング調査を行い

ました。活動当初は活動趣旨に賛同してもらえず、「環境でお金が儲かるのか」と冷たい言葉を浴びせられることもあったようですが、地域を良くしたいという熱い思いで活動に取り組み、徐々に回収に協力してくれる家庭も増えていきました。協力してもらえぬ家庭に、廃食用油を回収するポリタンクを設置し、年々回収地域と回収場所が拡大されていったと聞きました。

BDF事業は、今問題の廃れていこうとするコミュニティで成功しているように思えます。環境問題に取り組む過程で、環境意識の向上や廃食用油回収を通じ地域住民とのつながりが生まれ、コミュニティが再生されていくものではないかと、活動を通して考えています。

(大阪経済大学現代GP学生実行委員会・貞方雅則)

きれいな空気はみんなの願い
西淀川高校の菜の花プロジェクト

大阪府立西淀川高校はこれまでも積極的に環境学習に取り組んでこられました。その一環として、昨年から同校のプール横にあった空き地を利用し、授業や課外活動で菜の花プロジェクトを進められています。

BDF精製機も自前のものを導入するなど、本腰をいれた取り組みです。生徒のみならず先生方の努力の成果もあって、1年目とはいえ春には立派に花を咲かせ、4月に開催した見学会には近隣から多くの方々の

参加をえました。

肝心の菜種のほうも、ヒバリたちにかなり食べられてしまったものの、しっかりと結実し、地域の方々の協力をえながら授業などで刈取り・脱穀作業を進めているところ。ずっしりと重みのある黒い種がずいぶんと集まっています。また脱穀したあとの茎は堆肥に、また刈取りを終えて空き地になった畑は秋までの間トウモロコシ畑に、とそれぞれ有効に活用される予定

です。

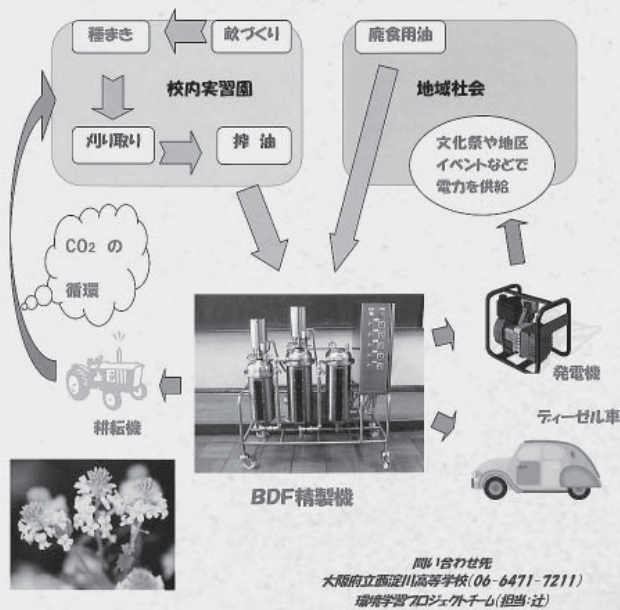
収穫後の菜種はさしあたり大阪府に返還され、阪急バスの燃料として使用されると聞いています。自分たちが育て収穫した菜種で実際にバスが動く、となると生徒のみならず成果を強く実感できるのではないのでしょうか。

「きれいな空気はみんなの願い、はじめよう菜の花プロジェクト」・「広げようエコの輪、広げよう自然の笑顔」――いづれも西淀川高校のみならずが出してくださった案から選出された菜の花プロジェクトのキヤッチフレーズです。「きれいな空気」をめざして西淀川で「エコの輪」が広がってゆく、その契機となる活動になるといいですね。(新井健一郎・ESD西淀川事務局)

西淀川高校 菜の花エコプロジェクト

3年「環境」の授業で取り組んでいます。

- (1) 校内での菜の花栽培
- (2) てんぷら油の回収
- (3) てんぷら油からバイオディーゼル燃料の合成
- (4) バイオディーゼル燃料を自動車や発電機の燃料として利用



東淀川区民祭りにて大阪経済大学とエコまちネットワークよどがわが共同して廃油回収を行った (2007.9.16)



西淀川高校で菜の花の収穫 (2008.6.10)

これからやっていきたいこと

廃油回収

廃油回収拠点づくり
(募集中)

西淀川高校で作成した BDFの使い道

大阪市漁協と話し合い、
漁船の燃料
発電機、耕耘機の燃料

菜の花栽培

プランターでの菜の花栽培
西淀川高校での菜の花栽培
サポーター募集中



関西の他地域の取り組みを紹介します

西宮

持続可能な地域づくり

西宮市では、平成18年に「特定非営利活動法人こども環境活動支援協会（LEAF）」が事務局となり、西宮市・西宮市教育委員会・西宮市社会福祉協議会・西宮商工会議所・西宮市教職員組合・生活協同組合コープこうべ・神戸新聞社・西宮市ESD検討委員会など多様な主体が参画し、西宮市ESD（持続可能な開発のための教育）推進協議会を発足させました。

協議会では内部研修会を行い、ESDの基本的な考え方として、「同時代における他地域の幸せおよび次世代の幸せに責任を持ちながら、自分たちの幸せのあり方を求

める」という共通理解を得ました。

平成19年度には、「過去から学び、今を知り、未来を考える」をテーマとした市民向け研修プログラム計14回を実施し、ESDについてじっくりと考え、それを行動へとつなげてゆくプロセスの大切さを確認しました。また、環境、福祉、平和、防災、産業などに取り組んできた地域の多様な主体をつなぎながら、ESDについて互いに学ぶことのできる「ふるさとウォーク」を行い、小学生から高齢者まで約600名の参加を得ました。

今後は、西宮市が設置している「エコネ

ットワーク会議」

において、各主体が情報を共有しつ

つ、ES

Dネット

ワークを

広げてゆ

くととも

に、市内

約20の設

置を目標

に進めている「エココミュニティ会議」に

おいても様々な主体が各々の立場で話し合

い、地域の課題に取り組む持続可能な地域

づくりをすすめていくことが期待されます。

（こども環境活動支援協会）



豊中

意識しなぐくもESDになんて

豊中では、国連持続可能な開発のための

教育の10年が始まる前年の2004年から、国際交流、人権、環境、ジェンダー、市民活動、教育、子育て、福祉などの分野の市役所の各部署、教育委員会、外郭団体、NPOなどが集まって取り組みを始めていました。その方針は、新たにESDという仕事を増やすのではなく、それぞれの取り組みにESDを活かせるよう、無理なく進め

ていこうというものでした。

そんな中、2006年から環境省のESD促進事業として「ESDとよなかりソースセンター構想」というテーマで取り組みました。豊中でESDを進めるために活用できる様々なリソースを整理し、だれもがアクセスしやすいようにしようというものです。また、そのような仕組みづくりだけではなく、それを活かせるような具体的な

取り組みも同時に進めました。その中のひとつが、「赤ちゃんからのESD」です。家庭に赤ちゃんがいてなかなか社会と関わりにくい状況にあった人たちが、赤ちゃんをキーワードにした学びの場に参加し、その内容に触発されて自主的に行動をおこし、他の同じような人たちの学びや実践の場を作り出していくまでになりました。

これからは、学校・園での取り組みも合わせた相互の学び合いや、様々な活動における学びの場づくりのためのセミナーなどを進め、あらゆる場でESDを意識しなくてもESDになっていくことをめざしていきたいと考えています。

（井上和彦・ESDとよなか）

生活不活発病を防ごう！

大川 弥生

第4回 悪循環を良循環に変えよう

生活不活発病を防ぎ、もし起って来たら早くみつめて「水際作戦」で元に戻すためには、もう一つ大事なポイントがあるようです。「生活機能低下の悪循環」と、それを「良循環」にする方法についてうかがいました。

前回、生活不活発病には「活動」（生活行為）の「質」と「量」を向上させて、生活を活発化させることで対処するのが基本だということをお話しました。

ですが、その大事さをよりよく理解するためには「もしそれをしないとどうなるか？」ということを考えてみることも大事です。

まるで雪の玉が転げ落ちるように

生活が不活発になると全身のあらゆる働きが低下するのが生活不活発病だとお話しました。しかし生活不活発病が起きると、「活動」がやりにくくなったり（質的低下）、疲れやすいのでついやらなくなったり（量的低下）と、それ自体が生活を一層不活発にしてしまいます。

それに加えて外出もあまりしなくなるし、家の中の仕事もついおろそかになりがちです。これは「活動」だけでなく「参加」も低下するということなのです。

ということは生活不活発病はICF（国際生活機能分類）※でいう「生活機能」（人が「生きる」ことの全体像）の3つのレベルである「心身機能」「活動」「参加」の全てを低下させるし、その低下自体が生活を一層不活発にさせ、それが更に新たな低下を招くという、「生活機能」全体に関わる「悪循環」を起こすとい

うことです。

これはまるで雪だるまの一部のよくな大きな雪の玉が坂道を転げ落ちながらますます大きくなっていくようなものです。

良循環を作るほかにない

これがわかれば、このような悪循環はストップさせなければならぬし、それだけでなく逆の「良循環」を作り出していかなければならないということがわかります。

「良循環」を作り出すカギは2つあります。

第一は「活動」（生活行為）を質的にも量的にも向上させることです。前回お話ししたように、屋外を歩くことが難しくなったら杖やシルバークーなどの歩行補助具をうまくつかって歩く、立って家事をするのが大変になったら、家具の配置換えやまた

れ立ちで家事をする、などで解決します。家事の中でも掃除などはついおっくうになりがちなものですが、掃除機を杖代わりに使うことで安定してできるようになることもあります。このように工夫することで楽にできるようにし、量的に頻繁に行うように心がけます。

第2のカギは「参加」の向上です。「年だから」「喘息などの認定疾患をもった病人だから」などと自分で自分を制約するのではなく、外出や社会参加の機会を増やすことです。それが「活動」の一層の活発化につながります。

こうして「活動」の向上と「参加」の向上があいまって生活が活発化し、それが心身機能の低下をとどめ、向上させ、それが「活動」を一層向上させ、「参加」の向上にもつながる、という「良循環」が作られるのです。こうして病気があっても、高齢であっても、元気で生きがいのある生活・人生を取り戻すことができるのです。

※ICF（国際生活機能分類）については別の機会に紹介する予定です。

（おおかわ やよい・国立長寿医療センター生活機能賦活研究部部长）

ほっと ニュース

みんなで歩こう西淀川の歴史めぐり

あおぞら財団付属西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）の開館2周年を記念して

昨年引き続き、まちあるきを開催しました。雨のため当初の予定を延期して、5月31日（土）の開催となりました。この日はあいにくの小雨。しかし、小学生から大人まで合わせて12人で、昔の地形に思いをはせながら約7キロのコースを歩きました。用意した「西淀川クイズ」に子どもたちは夢中。悪天候ながらも楽しい会となりました。



子どもたちに説明する小田館長

6年目の市民塾、テーマは道路特定財源

6年目を迎えた道路環境市民塾。4月12日（土）には「道路特定財源緊急勉強会」を開催、17人が参加しました。

西村弘・大阪市立大学教授が、1. 道路特定財源の歴史的経過、2. 道路特定財源

の実態について、兒山真也・兵庫県立大学准教授からは、「兵庫県の道路整備と財源に関する国会議員等公開アンケート」の内容と結果について報告を受け、参加者による意見交換をしました。（アンケート結果は、あおぞら財団HPをご覧ください。）

今年度市民塾では「道路特定財源からクルマ社会を考える」をテーマに勉強会を続ける予定です。道路特定財源の問題は、無駄遣いやガソリンの値段の変化ばかりに注目が集まりがちですが、クルマ社会とうまくつきあうために、税收の環境問題への対策、課税による自動車利用抑止効果、今後の道路の維持管理の費用など様々な論点を、学び、考えていきます。どうぞお楽しみに。

タンポポ博士誕生

「もう大丈夫。セイヨウタンポポとカンサイタンポポを見分けることができるよ」

日本に昔からあるタンポポを探す「タンポポ調べ」が4月26日、大野川緑陰道路で実施しました。この日の調査には、学童保育所やガールスカウトの子ども達50人が参加しました。カンサイタンポポ（在来種）は、日本に昔からあるタンポポで、里山など農村的環境で生育し、虫や蝶がいないと子孫を増やすことができません。一方、セイヨウタンポポは荒れた土地やコンクリートの隙間でも根を張り自家受粉で広がります。この日は半日かけて緑道の約半分を歩き、3カ所・7株のカンサイタンポポを発見しました。

リレーエッセー

後期高齢者が、全国で「高齢者の乱」ともいふべき状況を生み出してきている。年齢で医療保険を別立てする制度は少なくとも公的医療保険制度がある国では例がない。病気の多い高齢者を一括りにして保険料を徴収し、医療費がかさめば保険料を2年ごとに見直しあげるともいふべき悪法である。しかし国は、「高齢者のいかり」「乱」をなんとかおさめようと、制度が実施されてから2か月たつてやつと、実態調査に乗り出し、作爲的に対象者を抽出し「7割の方の保険料が下がる」と記者会見した。

しかし、筆者の属する全日本医師連は4月から6千人の患者の聞き取り調査を行い、「下がる」とした人6.6%、「上がる」人42%という結果を発表した。マスコミも大きくその違いを報道した。

「下がる人」がなぜ、これほど怒るのか。それ以来、国は一切、下がるとはいわなくなった。環境問題でも同じだが、国民を欺く手口は同じである。政府はまた、国民に対する説明が足らなかつたと言いつけているが、そんなことは決してない。4500円も

長生きして欲しいは「悪」なのか

長瀬 文雄

「75歳以上」で区切るという問題といい、制度設計には人間に対する尊厳がまったく見あたらないことに皆が怒っているのである。「後期」は「幸期」であるべきだ。「戦争も体験を覚えてくれてありがとう」「これからはお金の心配もなく、安心して暮らして下さい」という制度にすべきだ。1961年には岩手県沢内村で老人医療無料制度や乳幼児医療無料制度が実現し、劇的に健康度を改善した。25年前までは、国でも老人医療無料制度があった。税金の集め方、使い方を変えるだけで、こうした制度は可能である。

（ながせ・ふみお 全日本民主医療機関連合会事務局長、財団監事）

お知らせ

矢倉海岸定例探鳥会

(日本野鳥の会大阪支部との共催)
※毎週第1土曜日に変更になりました。
日時 9月6日(土)午前9時30分
午後12時30分頃(現地解散)

集合 阪神電鉄西大阪線「福一」駅改札口 午前9時30分
場所 矢倉緑地公園

あおぞら財団「ボランティア」の日
毎月第1金曜日はあおぞら財団ボランティアの日です。環境NPOの仕事体験してみませんか?お問合せ、お待ちしています。
日時 8月1日(金)

- 1日(火) 拡大事務局会議
所内学習会「中国福建省屏南県溪坪村視察報告」(報告:矢羽田)
- 2日(水) 道路環境市民塾運営会議
日本環境会議30周年記念大会&APNEC9(尼崎会議)第1回実行委員会資料館定例会議
- 4日(金) ボランティアの日
第21回フードマイレージ教材化研究会
- 8日(火) 事務局会議
- 10日(木) てづくりせつけん教室
- 11日(金) 大野川緑陰道路の教材作り研究会
- 12日(土) 道路環境市民塾「道路特定財源緊急勉強会」
- 14日(月) 事務局会議
- 16日(水) エコまちネットワークよどがわ運営会議
- 19日(土) 自転車ツアー
- 21日(月) 事務局会議
自転車文化タウンづくりの会 ワーキンググループ会議
- 22日(火) 西淀川高校菜の花見学
- 24日(木) 道路環境市民塾運営会議
- 25日(金) ESD事務局会議
- 26日(土) たんぼぼ調査
- 27日(日) みのお菜の花まつり
- 28日(月) 神戸大学受入

4月 事務局日誌 5月

- 1日(木) 拡大事務局会議
- 3日(土) 矢倉海岸定例探鳥会
- 7日(水) 広報会議
- 10日(土) 西淀川公害を語る出版を祝う会
- 13日(火) 事務局会議
道路環境市民塾運営会議
- 14日(水) エコまちネットワークよどがわ運営会議
- 15日(木) 桃山学院大学フードマイレージ講義
- 17日(土) 自転車ツアー
- 19日(月) 監査
西淀川地域再生研究会
- 20日(火) 事務局会議
ESD全体会議
- 21日(水) 第22回フードマイレージ教材化研究会
- 23日(金) 自転車文化タウンづくりの会設立総会
藤森医師ヒアリング(除本氏、尾崎氏、入江氏/調査協力)
資料館定例会議
- 24日(土) 市民が提案するもう1つの環境サミット(神戸)参加
- 25日(日) G8環境大臣会合関連イベント「環境NPONGO交流の広場」出展
- 27日(火) 事務局会議
大野川緑陰道路の教材作り研究会
- 28日(水) 子どもの参画べんきょう会
- 30日(金) FMくらしきラジオ番組「みみみみずしまエコらぼフライデー」
放送:テーマ「大野川緑陰道路の教材できました」(出演:矢羽田)
- 31日(土) 第2回みんなで歩こう西淀川の歴史めぐり

お礼

(2008年4月・5月 敬称略)

●入会ありがとうございます
岸本博、日原一智

●寄附・寄贈者
相川泰、浅井真二、あゆみコーポレーション、遠藤宏一、(株)OMソーラー協会、大阪社会運動協会、大阪人権博物館、岡田知弘、小田康徳、柏原純夫、神吉紀世子、環境劇団いるか、神戸女学院大学人間科学部、国土交通省、坂本裕子、櫻井次郎、桜木町自治会、重森喜夫、清水鳩子、清水万由子、全大阪生活と健康を守る会連合会、全国公害患者の会連合会、津下佳世、寺村定

晴、中瀬、中山裕二、西野田工科高等学校、野呂雅之、松田毅、南慎二郎、南 清吾、宮本憲一、民主教育研究所、百瀬和重、安原歩、除本理史、渡辺武、和田美頭子

●お助けボランティア参加者
浅井真二、西野慧、松原伶

おねがいとおしらせ
リベラへのご意見・ご要望または投稿をお待ちしています。また、メール通信「あおぞらEXPRESS」を開発しています。ぜひご利用下さい。
配信を希望される方は
<http://groups.yahoo.co.jp/group/aozora-mail/>
から登録できます。

【編集後記】

ESD～国連持続可能な開発のための教育の10年～持続可能な未来社会をめざして、環境、人権、平和、社会的公正などの視点をもって未来志向で社会(地域)づくりに参画する市民を育む「人づくり」の取り組みだそう。そのモデル地域に西淀川が選ばれ、市民のみなさんが「つながり」「交わり」「育ちあう」活動を広げるお手伝いをしています。地域が持っている潜在力を活かし、参加する主体が「つながる」ことで元気になる、「交わる」ことで新たな共感を広げることができれば…まずは菜の花プロジェクトが動き出しました。(T)

『Libella』No.103 2008年7月号(隔月1日、年6回発行)
発行所 (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人 上田敏幸
大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階
Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885
<http://www.aozora.or.jp/>
E-Mail webmaster@aozora.or.jp
印刷所 あゆみコーポレーション
定価 一部400円(郵送料込み)
会員の購読料は会費に含まれています。
郵便振替口座 00960-9-124893 (加入者名 あおぞら財団)
乱丁・落丁はお取り替えます。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。



あら い けんいちろう
新井健一郎

1977年生まれ、神戸大学大学院総合人間科学研究科で社会政治思想を研究中。あおぞら財団でアルバイトすることに、ESD 葉の花プロジェクトなどをサポートしています。

常に「目に見えない大切なもの」に 目を向ける必要性を訴えている

ひよんなことがきっかけとなって、四月の半ばからアルバイトとしてあおぞら財団でお世話になっています。

直接目に見えるものではないけれど

あおぞら財団の「公害地域再生」にむけた様々な取り組みは、とてもおおざっぱに整理してしまおうとするならば、1. 人と人との関係と、2. 人と人を取り巻くものとの関係、この二つのあり方を好ましいものにしてゆくためになされているのだと理解しています。いずれの関係も直接目に見えるものでは必ずしもなく、捉えるのはとても難しいもの、け

(執筆者の希望によりウェブ版には写真を掲載していません。)

れどもとても重要なものではないでしょうか。

絵本『星の王子さま』の冒頭にとても印象深い絵があります。大人の目には帽子に見えるけれども、実はゾウを呑み込んだウツバミだ、というあれです。覚えていらっしやる方も多いのではないのでしょうか。人と人との関係や人と人を取り巻くものとの関係を考えようとするならば、ここに含まれている「大切なものは目に見えない」という警句から目を背けることはできないように思われます。というのも、たとえば「人間は自己完結した個人である」という見かけ、「常識」にとらわれていると、その背後にある「社会」や「自然/環境」といったような何らかのより大きく重要な、けれども直接目には見えない幹組みが存在する可能性を穿ってみることができなくなってしまうからです。

「大切なもの」の可視化

私自身は、そのように「目に見えない大切なもの」は何を根拠として「ある」といえるのか——いいかえるならば、通念を批判することを可能とする概念はいかに正当化されるのか——、またはそれが「ある」のだとすればそれは一体何なのか、といったことに

関心をもって細々と勉強をしてきました。書物を通じて得た情報から想像することしかできないのですが、西淀川で反公害運動が展開され公害訴訟が進められていた時には、被害者の方々の健康破壊と生活破壊という厳然たる事実を根ざしてそれらの「大切なもの」が明確に可視化されていたのだと思います。そしてそこで可視化されたものがあおぞら財団の出発点と目的地を規定しているまさにそのものに他ならないのでしょうか。

ほんやりと見えてくる

地域再生という建設的な段階に入ると、被害が甚大だった時代と比して「大切なもの」はまた目に見えにくくなります。また人と人との関係や人と人を取り巻くものとの関係の「好ましい」「あるべき」姿を積極的に描くのはそう簡単なことではありません。しかし、確固たる経験から出発した財団の理念はさまざまな取り組みに通底していて、常に「目に見えない大切なもの」に目を向ける必要性を訴えているように思えます。活動の積み重ねの先には「大切なもの」のなんらかの「好ましい」「あるべき」姿がほんやりと見えてくるのではないのでしょうか。